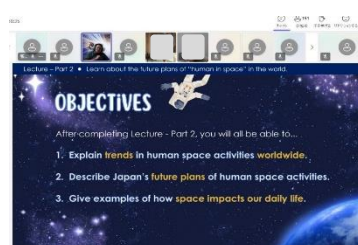


令和6年10月1日（火）

第13期研修生Aコース及びBコース 先端技術等に関わる方の講演（オンライン実施）

講演テーマ “Complete Guide to Japan’s Human Space Pioneering（日本の有人宇宙探査の先駆的な取り組み）”

本研修の目標は、「講演を聞いて、社会における科学技術等が担う役割や取組等について理解を深めること」です。令和6年度は有人宇宙システム株式会社 JAMS S にお勤めの方々を7人お招きし、宇宙産業について様々な視点からお話を伺うことができました。メインスピーカーの濱田直樹さんの御講演では、宇宙飛行士の役割や、宇宙飛行士を支える様々な仕事、宇宙開発に係る今後の取組などについてお話をいただきました。研修生たちは、事前に宇宙



有人宇宙システム株式会社 JAMS S
メインスピーカー 濱田 直樹さん

産業に関する3つの記事を読んで理解を深めていました。講演は英語で行われ、研修生たちはメモを取りながら内容を理解しようと集中して聞いていました。宇宙開発は遠い話ではなく、宇宙で行われている高品質タンパク質結晶生成実験が世界の薬品開発に、宇宙の野菜工場が世界や宇宙の食問題の解決に貢献していることについても学ぶことができました。

質疑応答では、時間内では回答しきれないほど多くの質問が研修生から寄せられ、7人の講師の皆さんに回答いただきました。研修生からの質問を2点紹介します。

Q1 今後、宇宙旅行ができるようになると思いますか。そのために、どのような技術の発展が必要だと思いますか。

A1 宇宙旅行は将来、可能になるでしょう。これには様々な技術の発展が必要になります。例えば、ロケットを早く低コストで飛ばすための再利用技術や、宇宙での生活を快適にするためのホテルやエンターテインメントの開発が挙げられます。また、宇宙で生活技術の進歩も不可欠で、これには食糧生産や医療技術などが含まれます。

Q2 学生時代に学んでいて、よかったと思うことはなんですか。

A2 個人的には、学生の間にできるだけ英語力を上げるとよいと思います。英語を使うことへの抵抗をなくし、ツールとして使えるようになることが大切です。また、私は宇宙工学に興味があって大学で勉強しました。自分の好きなことを武器に頑張ることも大切ですが、他の分野の授業を取ったり、いろんな考え方や視点を学んだりすることも大切にしていました。自分の得意なものだけでなく、宇宙業界に関わらず、大切なことだと思います。

質疑応答の後に行われたワークショップでは、事前に読んだ3つの記事を基に、自分の考えを英語で伝え合うことができました。講演後、研修生は「どんな分野のことでも宇宙につながれること、本当のコミュニケーションとは、相手を正しく理解し自分の意見をしっかり伝えることである、という話にとっても感銘を受けました。宇宙についての興味、国際的な人と関わることに對しての興味が深まりました。」「日本は自分が思っていたよりも、様々な宇宙のことに取り組んでいることを知って驚いた。また宇宙(国際宇宙ステーション)では植物も栽培していて、宇宙から食べ物の問題を解決できる日が来るのではないかと深く考えるきっかけになった。」と、講演内容を振り返ることができました。

令和6年10月1日（火・祝）

第13期研修生Aコース 「リーダーシップ④（コーチング）」



リーダーシップ④の研修では、コーチングの手法について学びました。コーチングとは、話し手の自主的な行動を促すコミュニケーションスキルです。話し手が話しやすいように質問したり、考える時間を取ってあげたり、相づちを打ちながら話を聞くことが大切であることを学びました。

本研修では、コーチングの手法を生かし、相手に質問しながら話を聞くことや、相手とインタビューし合うワークショップを行いました。これにより、実際に仲間のゴール（未来の姿や目標）を尋ねる体験を繰り返し、お互いの志を引き出し、想いの核がどこにあるのかを深く知り合うことができました。

この研修の目的は、お互いの行動を引き出し、自分自身のリーダーシップと共に行動していける意識付けを行い、応援しあえる関係性を築くことです。研修では、3人グループに分かれて英語で意見交換を行いました。

《ワークショップ①：未来の私をイメージする》

6年後の自分になりきって、自身が6年後どのようなになっているかを想像し、グループの人に伝える活動を行いました。2030年とはどのような社会になっているのでしょうか。次世代リーダー育成道場を終えて、どのような自分になっているのでしょうか。一人一人が未来の自分自身について想像を膨らませながら、お互いに伝え合うことができました。

《ワークショップ②：次世代リーダーとしてのゴールを引き出し合う》

ワークショップ①を経て、6年後の自分のリーダーとしての姿を意識した上で、次世代リーダー育成道場の留学から帰ってきた時点でのゴールを各自が設定しました。お互いに伝え合い、相手の話に対して質問することで、より明確なゴールを設定することができました。

《ワークショップ③：現状とゴールを埋めるための行動を引き出し合う》

自分のゴールと現状に向き合い、そのギャップを埋めるための行動を具体的に書き出し、グループで共有しました。グループ内で共有することで、自身の考えを一層広げることができました。留学までの3か月をどのように過ごすか、一人一人が主体的に考えることができました。

リーダーシップ④実施後の、研修生の感想を紹介します。

- これまで生徒会長などリーダーとしての経験はあったが、先輩や先生からコーチングのように話の聞き方を教わったことはなかった。これから次代を担うリーダーになる上で大切なことを学べたと思う。
- 時間を上手に使いながらコーチングの基礎を学び、インタビューのセッションを通して自分の将来の姿を英語で説明することができ、とても有意義な時間になった。